

STOP！女川原発再稼働 さようなら原発全国集会 in 宮城

集会アピール（案）

2024年元日、能登半島を襲った巨大地震の惨状は、私たちの脳裏に13年前の3.11東日本大震災の光景をまざまざと呼び起こしました。あ那时的福島原発事故の恐怖がよみがえり、「志賀原発は大丈夫なのか？」と戦慄したのです。

そうしたさなか、東北電力は、女川原発2号機の安全対策工事を今年6月に完了し、9月頃に再稼働すると発表、「これ以上遅れることはない」と宣言しました。

私たちは、能登半島地震により、半島部にある原発の地理的リスクが突きつけられたにもかかわらず、立ち止まることなく女川原発再稼働に突き進む東北電力に対し、強く抗議するものです。

能登半島地震では、多くの家屋が倒壊・損傷し、道路の寸断によって孤立する集落が半島部の全域に広がりました。志賀原発周辺9市町の住宅被害は2万件を超え、志賀原発重大事故時の避難ルート11路線のうち7路線が通行止めになったと報じられています。

女川原発30km圏（UPZ）に暮らす石巻市民は、避難計画に実効性がないことを訴え、女川原発再稼働差止訴訟を闘ってきました。もし、志賀原発が稼働中で、放射能が大量に漏れる事態が生じていたら、周辺住民は屋内退避も避難も出来ず、放射能が降り注ぐ中に放置され、命の危険にさらされていたことは確実です。まさに「棄民」と言うべき事態です。

石巻市民が訴えてきたように、住民の広域避難と屋内退避を基本とする今の原子力災害対策は、地震によって起こる原発事故にはまったく機能しない「机上の空論」であることが、図らずも、能登半島地震によって証明されたのです。複合災害時の原子力災害対策が破綻した以上、「地震列島」日本で原発を動かしてはなりません。

女川原発は、福島第一原発と同じ沸騰水型原発（BWR マーク I、女川原発は改良型）であり、地震に関する知見が甚だ乏しい1970年代に設計された旧式の原発です。しかも、これまで何度も基準地震動を上まわる揺れに見舞われ、深刻な損傷を受けた「被災原発」です。2号機は1995年の運転開始からまもなく30年を経過し、「老朽原発」の域に入ります。

そもそも「福島原発事故の原因が究明されていないのに、同じ型の原発を動かしてよいのか？」という重大な疑問に、誰も答えていないのです。

また、国内外から深刻な懸念が訴えられていたにも関わらず、国と東京電力は、昨年8月、ALPS処理汚染水の海洋放出を開始、2051年まで続けるとのことですが、デブリがそこにある限り汚染水は発生し続けます。長期にわたる海洋放出は生態系にいかなる影響をもたらすか未知数であり、将来世代に負の遺産を押し付けることとなります。

私たちは、東北電力と宮城県に対し、今年9月に予定している女川原発2号機の再稼働を中止することを求めます。国に対しては、全国の原発の運転をただちに停止し、能登半島地震の知見を原発の耐震安全対策、原子力災害対策に全面的に反映させることを求めます。

私たちは決してフクシマを忘れません。

28年もの長さにもわたる抵抗のすえ、原発誘致を阻止した石川県珠洲市の市民の闘いに学び、日本のどこにも原発はいらないと声を上げ続けます。世界中の人々と手をつなぎ、世界のどこにも原発はいらないと声を上げ続けます。

2024年3月23日

さようなら原発全国集会 in 宮城 参加者一同